

## 令和6年度 第2回 学校運営協議会 記録

1 日時 令和6年10月22日(火) 午前9時30分から午前11時30分まで

2 場所 沼津視覚特別支援学校 会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議員

第五地区西連合会事務局長

東部社会教育振興協議会事務局長

特定非営利活動法人ティンクル副理事長

和太鼓奏者・本校卒業生

沼津ライオンズクラブ会長

三島市主任児童委員

本校PTA

(2) 学校職員

校長 教頭 事務長 各部主事・主任 キャリア支援課長 人財サポート担当



校内参観の様子

4 会議の内容

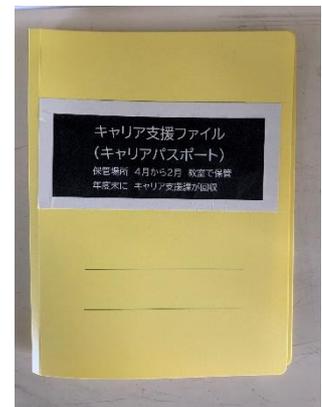
(1) 校長あいさつ、日程説明

(2) 校内参観

(3) 校内参観の御感想・御意見

(4) 協議「キャリア教育・キャリアパスポートについて」

(5) その他



キャリアパスポート

5 会議報告

<校内参観の御感想・御意見>

- ・11月の学習発表会に向けて子どもたちが楽しみに頑張っていることが伝わってきた。
- ・学習発表会の舞台の大道具や小道具を他学年の子どもたちが事前に触って確認する取り組みは素晴らしい。このような情報保障が視覚障害者にはないと困るということ子どもたち自身がわかることが大切。権利の学習でもある。
- ・事前に触って確認することは視覚障害者だけでなく晴眼者でも大切であると感じる。一つの行事がワクワクした楽しみにつながっていく。
- ・弱視者が多い中での全盲者へのサポートはどのようにしているのか気になった。
- ・実際に触って体験する積み重ねができるのはこの少人数の学校の強み。
- ・会話が多く、その中で話す順番を待つ大切さや、友達の考えを聞いたり、自分で考えたりする大切さを感じた。子どもたちがとても落ちついて授業を受けていた。
- ・先生方の考えられた課題提示により、子どもたちが集中して楽しそうに取り組んでいるのが感じられた。
- ・先生と生徒が一对一の関係は難しさもあると思われるが、個に応じた対応をしてもらえ恵まれている。
- ・生徒が多くなり学校が明るくなった。広い環境もうらやましい。
- ・タブレット等を使う大変さもあると思うが、よく使われていた。

<協議「キャリア教育・キャリアパスポートについて」>

①キャリアパスポートについての説明(キャリア支援課長)

- ・キャリアパスポートは全国の小・中・高・特別支援学校で令和2年から導入されているもので児童生徒がキャリア教育活動について記録して蓄積していくファイルのこと。
- ・年度初めや年度末、学期始めや学期末に目標や反省を記入したり、行事や表彰、頑張ったことの記録、進路学習の記録などを学年、学部を超えて蓄積したりし、振り返ることができるファイルで、本校では昨年度より現在の形で作成している。

②各学部より(キャリア支援ファイル内のシートをスクリーンで紹介しながら)

**小学部**

- ・第1回学校運営協議会で行ったキャリア教育についてのグループワークで委員のみなさんから出された早寝早起き朝ご飯など基本的な生活習慣の大切さについて学部で確認し、保護者面談等で各家庭にも伝えた。
- ・障害のある方に「学校でつけておいて欲しい力は」と聞くと、「失敗しても、もう一回がんばれる力。次どうするかを考えられる力」と口をそろえて言う。子どもたちが自分に任されたことを責任を持ってやりとげられるよう、そしてそれが自己有用感につながるように指導している。

**中学部**

- ・達成感を感じられるように具体的な目標設定となるよう指導している。自分を振り返る機会になり、自己理解が進み、そして今後の生活につながる目標となるようにしている。

**高等部**

- ・自分の特徴や依頼したいことをまとめたものを、私のトリセツとして作成し、自己理解を促し、社会生活で活用できるようにしている。

③御意見・御感想

- ・より個人的な内容で、個に合わせた使い方をしていることがわかった。
- ・年齢に応じて自己分析する力が高まっていくと感じた。
- ・キャリアパスポートの活用について、学年が上がるにつれてデリケートな内容も増えてくるが活用できる幅もあると感じる。
- ・「できないこと」を「できるように」となりがちだが、普段から褒めたり、いいところを見つける支援、指導が大切。うまくいった時の分析も必要だと思う。
- ・自分で目標を設定できるのは素晴らしい。自信や自己肯定感につながるとよい。できないことを目標にするのは辛くなることもある。既にできることも全面に出し自信を持って成長してほしい。
- ・目標を一度決めたからといって、そこに縛られないでいてほしい。目標は変わってもよい。道筋をつくることにより、取捨選択の幅が狭まらないようにしたい。
- ・キャリアパスポートは作成だけでなく、それを使って教師と生徒が対話することが大切。対話により興味関心に結びつくこともあるので、柔軟にとらえていくとよい。
- ・AI技術などの発達により、これまでとは人間が働く姿が変わってきている。視覚障害者だからできないと決めず、大人が働くいろいろな姿を見る機会を作っていくのも大切と感じる。